

本広克行（もとひろ・かつゆき）先生



映画監督

1965年生まれ、香川県出身。

CM、深夜番組、情報バラエティ、ドラマ、ドキュメンタリー番組の制作や演出を担当後、1996年、映画『7月7日、晴れ』にて劇場デビュー。

2003年に公開された映画『踊る大捜査線 THE MOVIE2 レインボーブリッジを封鎖せよ!』では、日本映画(実写)興行収入記録歴代一位の座を獲得。その後も『踊る大捜査線シリーズ』『サマータイムマシン・ブルース』『UDON』等、数々の作品を手がける。

2007年演劇プロジェクト FABRICA を立ち上げ演出を担当。2010年平田オリザ原作、岩井秀人脚本、舞台『演劇入門』へ演出参加。

近年はAKB48『Everyday、カチューシャ』PV、アニメ『PSYCHO-PASS サイコパス』総監督、『功殻機動隊 ARISE border:less project』プロジェクト・プロデューサー、2013より「さぬき映画祭」ディレクターと活躍は多岐に渡る。ネスレシアター on YouTube のショートムービー『Regret』は300万再生を超えている。

近作にLIXIL ブランドシネマ「ほっとファーザー」Nescafe コンセプトシネマ「踊る大宣伝会議 或いは私は如何にして 踊るのを止めてゲームのルールを変えるに至ったか」の総監督を務めている。最新作は平田オリザ原作・ももいろクローバーZ 主演、映画『幕が上がる』(2015年2月28日全国公開)。

《講義概要》

映画監督であり、舞台演出やアニメの総合監督など幅広く活躍する本広克行氏が、映像表現の現状と未来と題し、受講生との対話形式で講義を行った。

まず、本広氏より自己紹介があり、学生時代の重大事故がきっかけで、映画の道に進み現在に至ると話された。続いて、受講生有志が登壇し、本広氏へ経歴・作品、そして考え方等の質問を行った。経歴については、映画監督になるまでの具体的な経緯を問いかけた。映画の専門学校に進学し、その後テレビ局のADとして働き始めた。「30歳までに映画を撮る」という周囲への宣言通り、29歳のときにフジテレビ製作の「7月7日、晴れ」で映画監督デビューを果たした。人から頼まれた仕事は断らない事を信条として、映画だけではなくテレビドラマ、ショートムービー、プロモーション映像、アニメーションなど幅広い映像作品の製作に携わっている。

続いて、本広氏が監督を務めた作品の中で6作品（「踊る大捜査線」シリーズ、「PSYCHO-PASS」、「サマータイムマシーン・ブルース」「UDON」「曲がれスプーン!」「幕が上がる」）を取り上げ、個々の作品について質問を行った。作品を撮るきっかけや、出演俳優とのコミュニケーションのとり方など、受講生が自ら考えた質問を本広氏にぶつけた。「踊る大捜査線」シリーズについて、当初楽しんで自由に撮り始めたドラマだったが、ドラマ好きの人々の支持を得、年配者から子どもまで幅広い世代の人々に人気のシリーズとなった。「PSYCHO-PASS」について、総監督として、作品への関わり方を話した。「サマータイムマシーン・ブルース」「曲がれスプーン!」はヨーロッパ企画とタッグを組んでおり、俳優との感覚の共有方法や、自らの経験に基づいた作品であると話した。「UDON」は香川県で撮影を行っており、映画でできる地方貢献の一つと述べた。最新作「幕が上がる」については、映画だけではなく2015年ゴールデン・ウィークには舞台化される。その演出も手がけ、現在は映画だけではなく幅広い作品に関わる時代だと話された。

その他、作品のインスピレーションの得方や、良い映画の条件などが話された。最後に今後未来を創造する受講生に期待することを受講生有志が問いかけると、辛い仕事をどう乗り越えるかは、無理をせず流れのままにゆくこと、そしてどうすれば仕事が楽しくなるのか、仕事をおもしろくする方法を考えることが大切であると述べ、講義を終えた。

第一線で活躍する本広氏の仕事に対する姿勢や、考え方は多くの受講生が感銘を受けた。また、代表として質問した受講生有志にとっては、間近でお話を聞くことのできる貴重な機会となった。

